

○事業所名	放課後等デイサービス ジュン あさひ			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 20日		～	2025年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	年 月 日		～	年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 8日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者アンケートでも「子どもが興味を持つことを毎回考えてくれる」「学校を休みたがってもデイには行きたがる」と嬉しいお声をいただいています。日々の活動を工夫し、子どもたちが心から楽しんで通える安心の居場所になっていることが私たちの最大の強みです。	子どもたちが「今日も楽しかった!」と笑顔で帰れるよう、活動プログラムが固定化しない工夫をしています。一人ひとりの特性に配慮し、集団活動と個別活動をバランス良く組み合わせたり、学習スペースを設けたりと、状況に応じた柔軟な対応を心がけています。	今後は子どもたちが自分で「やりたい!」を選べるような、自己決定を促す支援をもっと増やしていきたいです。与えられた活動だけでなく、自分たちで遊びやルールを考える機会を設けることで、主体性や自己肯定感をより一層育んでいけるような支援内容にブラッシュアップしていきます。
2	日々の送迎時の会話だけでなく、年2回の面談や「あさひ便り」、Instagramでの発信を通じて、お子様の様子を丁寧に伝えてきています。保護者様からも「相談できて安心感がある」「親身になってくれる」と高く評価していただき、二人三脚で子育てをサポートできていますと感じます。	保護者様に安心してお任せいただけるよう、日頃のちょっとした変化や成長も逃さずお伝えするよう意識しています。「あさひ便り」やSNSでの発信も、ただの報告ではなく、子どもたちの頑張る姿が生き生きと伝わるよう工夫し、面談の機会も大切にしています。	保護者様への情報発信をさらに充実させ、ご家庭での支援のヒントになるような情報提供も進めていきたいです。例えば、私たちがデイで実践して効果があった声かけのコツなどを通信でシェアすることで、ご家庭での子育てが少しでも楽になるようなプラスアルファのサポートを展開したいです。
3	毎日欠かさず昼礼で担当を決め、夕礼でその日の振り返りやヒヤリハットの共有を行っています。月に1回の全体ミーティングでは、みんなで意見を出し合いながら支援の見直しをしており、スタッフ全員が同じ方向を向いて一丸となってサポートできる体制が整っています。	支援の質を落とさないため、スタッフ同士のコミュニケーションを大切に、夕礼や日報での記録を徹底しています。また、Zoomなどを活用した外部研修にも積極的に参加し、新しい知識を取り入れながら、スタッフ一人ひとりが専門性を高められるよう頑張っています。	スタッフの専門性をさらに一段引き上げるため、事業所内でのケーススタディや内部研修の時間を増やしていきたいです。外部研修で得た知識を共有するだけでなく、実際の支援での悩みを深掘りしてディスカッションし、チーム全体の支援スキルを底上げするプロ集団を目指します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「部屋が狭く感じる」「外階段が急」といったお声をいただいています。また、視覚的な刺激を減らすためのパーティション不足や、専用のクールダウンスペースがなく職員室で代用している点など、より快適に過ごすための環境づくりに改善の余地があります。	環境面については、建物の構造上の制限が大きな要因です。玄関の段差や外階段の急さなどはすぐに改修することが難しく、利用定員に対してどうしても活動スペースが限られてしまっています。限られた空間の中で学習やクールダウンの場所を確保しようとしているため窮屈さを生んでいます。	ハード面の劇的な変更は難しくても、工夫でカバーしていきます。まずは視覚支援のための可動式パーティションなどを導入して集中できる空間を作ります。また、室内外の活動を分け、公園等の外部施設をより積極的に活用して、のびのび活動できるようにします。
2	特に学校からの引き継ぎにおいて、情報が不足してしまう場面が時折見受けられます。また、公園などで地域の子どもの交流はあるものの、放課後児童クラブなどとの関わりの機会がまだ十分とは言えず、地域社会の中でのつながりをもっと広げていく必要があります。	学校や関係機関との連携不足は、お互いの業務の忙しさから、どうしても日々の最低限の連絡調整で手一杯になってしまっていることが背景にあります。また、地域交流についても、日々のプログラム運営を優先するあまり、外部へ積極的に働きかける余裕が少し不足していました。	学校や関係機関との連携については、送迎時の短い時間も有効活用し、連絡アプリだけでなくお電話なども通して、より深い情報交換ができるよう働きかけていきます。また、無理のない範囲で地域社会と触れ合える機会を、年間計画の中に少しずつでも組み込んでいきたいと考えています。
3	現在は父母の会やご家族同士が交流するイベントがなく、保護者同士の繋がりをサポートできていません。また、安全確保は行っているものの、「マニュアルや計画が周知されているか分からない」というご意見もあり、いざという時のための発信力に課題を感じています。	保護者間交流については、「お忙しい保護者様にご負担をかけてしまうのではないかと」という事業所側の遠慮がありました。また、安全計画などの周知については、契約時の説明や一部の対策はしているものの、いつでも目に見える形で確認できるような「伝わる工夫」が不足していました。	保護者支援については、堅苦しいものではなく、お茶飲み感覚で気軽に参加できるようなオンラインの座談会など、ゆるい繋がりを育てる場を企画してみたいです。また、安全計画については、分かりやすい「安全・防災だより」を発行し、いざという時に皆様安心して見える化を図っていきます。

事業所名	放課後等デイサービス ジュンあさひ
------	-------------------

公表日 2026年 3月 12日

利用児童数 2026年12月18日

回収数 21

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	2	0	1	・部屋は狭いと感じてしまう。	活動内容に応じて室内外を使い分け、室内配置も見直して窮屈さを減らします。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19	0	0	2	・適切な人数というのがそもそもわからない。	職員配置の考え方が伝わるよう、体制や役割を保護者へわかりやすくお伝えします。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	2	0	2	・事業所の外階段は急だなと感じる。	外階段の安全確認を継続し、昇降時の見守りと注意喚起を強めます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18	2	0	1		
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20	0	0	1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20	1	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21	0	0	0	・とてもよく見ていただいて作成してくださってるのがすごく伝わってくる内容になっていると感じる。	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	1	0	0		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20	0	0	1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	21	0	0	0	・子ども達が興味を持つこと、子ども達の為になることを毎回考えてくださり感謝している。	
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	9	1	0	8	・地域の方との交流、活動はあるが、他の子どもとの交流は分からない。 ・デイ内で交流できているので十分。 ・無理に交流しなくても良いと思う。	地域との関わりは無理のない範囲で続け、実施内容が伝わるよう発信を増やします。
保護者への	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19	1	3	1		契約時の説明に加え、変更点は書面でもお伝えし、わかりやすさを高めます。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19	1	0	1		計画説明の時間を確保し、要点をその場で確認できるようにします。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	3	0	4	・面談や活動の様子もメールで分かるだけで十分だと思う。	希望される方に合わせ、面談・資料提供・個別助言など参加しやすい形で支援します。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	19	2	7	0		送迎時・面談・連絡手段での共有内容をそろえ、日々の様子がより伝わるようにします。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	19	1	0	1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20	0	0	1		

説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0	2	0	8	・保護者同士、兄弟同士の交流は無い。 ・日頃の活動で満足。兄弟支援等は無くてもよい。	希望を確認し、必要な方に限って保護者交流やきょうだい向け案内を検討します。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16	1	11	4	・学校での様子などの相談や共有ことも細かに聞いてくださり保護者としても相談できて安心感がある。	相談窓口と受付方法を改めて周知し、相談しやすい体制をわかりやすく示します。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19	1	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	21	0	1	0	・活動の様子や行事予定はすぐく丁寧 に発信していると思う。	今後も定期的に発信し、必要な情報が見つけやすい形に整えます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19	0	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	1	1	4	・マニュアルの周知までは分からない が感染症対策などは定期的に呼びかけ を見る。	各マニュアルや訓練の実施状況を、保護者にもわかる形で周知します。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18	0	1	3		避難訓練の実施内容をお便り等で共有し、実施状況を見えやすくします。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16	2	0	3	・計画を周知されているのは感じない が、安全の確保は十分に行われている と思う。	安全計画の内容と取組を、保護者へ定期的にお知らせします。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20	0	0	1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	21	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	20	0	0	1	・学校を休みたがっても、デイには行 きたがっているので通所を楽しみにし ているのが伝わる。 ・先生たちが好きで楽しく通所してい	
	29	事業所の支援に満足していますか。	20	0	0	1	・子どもの支援だけではなく、保護者 の相談にも親身になってくださり感謝 している。	

事業所名		放課後等デイサービス ジュンあさひ			公表日		2026年 3月 12日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8			2
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	1	・ご利用者の人数や特性に配慮し配置を行っている。	利用人数と特性に応じた配置基準をさらに明確にする。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	5	・日々清掃を行っている。また、学習スペースを設けている。	玄関動線の安全対策と視覚的な区切りを進める。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	0	・時期に合わせ加湿器や、空気清浄機、サーキュレーター等を使用している。	落ち着ける個別空間を確保する。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	3	・クールダウン時には職員室等を使用している。	落ち着いて過ごせる個別スペースの確保を進める。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10	0	・夕礼、また、月に1回全体ミーティングを実施している。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	・年に1回の評価表をもとに業務改善を行っている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	・夕礼、また、月に1回全体ミーティングを実施している。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	2		外部評価の受審方法を整え、改善に反映する。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	4	・運転講習会の実施 ・zoomを活用した外部研修に参加している。	研修計画を年間で定め、参加状況を管理する。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0	・ホームページにて公表している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10	0				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	0	・ミーティング等で確認、共有を行っている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	1		評価方法を統一し、記録の精度を高める。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	0				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	0				

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	0		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	0	・支援前に担当を決め日々の昼礼で共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	0	・夕礼日誌や日報	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	0	・6か月毎にモニタリングを実施している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	10	0		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10	0		
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	1		医療・福祉・教育との連絡機会を定例化する。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10	0	・学校からの引き継ぎは不足しているところもある。	学校との共有様式を統一し、引継ぎ漏れを減らす。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	5		入所前の支援歴を確認する手順を整える。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9	1	・必要であれば提供できる。	移行時の情報提供手順を文書化し、必要時に速やかに共有する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	5		児童発達支援センターへの相談ルートを確保する。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	3	・公園やログハウス等で地域の子供たちとの交流がある。	地域交流の目的を明確にし、実施機会と周知を増やす。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	4		協議会への参加担当を決め、継続して出席する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	0		
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	5		家族向けの助言会や資料提供を計画的に行う。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	0	・契約時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	0	・面談を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10	0		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	0	・年2回保護者との面談を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	8	・現在は保護者同士交流する機会を設けていない。	希望を確認し、保護者交流の機会を無理なく検討する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10	0	・月に1回あさひ便りを発行したり、日々インスタグラムの投稿を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	6		地域参加できる行事や見学会を段階的に増やす。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	1	・一部実施。	各マニュアルの周知と訓練実施記録を徹底する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	0	・防災週間を年2回設けており、防災センター等を活用している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10	0	・ミーティング等で共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	1		安全計画に基づく研修と訓練の実施回数を明確にする。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	0	・夕礼時に共有を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	1		虐待防止研修を定期化し、受講状況を管理する。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	1		身体拘束の判断手順と説明記録を様式化する。	